

地方議員研修会 in 海の京都 舞鶴市
「地方創生時代の政策と議会のあり方を学ぶ」
研修報告書

研修日時 平成 29 年 4 月 18 日～4 月 19 日

場所 舞鶴赤れんがパーク

主催 ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟
マニフェスト大賞実行委員会

報告者 高瀬 洋
高橋 博久

講義内容

【4月18日】

13:00～13:05 【開会挨拶、趣旨説明】

13:05～13:30 【基調講演】

「地域から日本を変える」

北川正恭・早稲田大学名誉教授

13:30～14:30 【グランプリ受賞特別講演】

「地方創生と地域医療改革の実践」

多々見良三・舞鶴市長

14:40～15:00 【政策紹介】

「『赤れんが』『海・港』を核とした観光産業の振興政策」

舞鶴市産業振興部観光商業課

15:00～15:30 【議会先進事例報告①】

「ミッションロードマップと大津市議会の取組み」

清水克士・大津市議会局次長

15:40～17:00 【議会先進事例報告②】

「出張委員会、高校生フレッシュ議会」等

田中法男・福知山市議会議長

「政務活動費の後払い制と詳細な公開」等

松本経一・京丹后市議会議長

「子どもたちの声を市政に届けた『子ども議会』」等

湊泰孝・亀岡市議会議長

「第19期舞鶴市議会活動基本計画」等

上野修身・舞鶴市議会議長

17:00 【閉会】

【4月19日】

08:30 舞鶴引揚記念館（館長・語り部）

10:30 舞鶴赤れんがパーク（ガイド他）

13:00 自衛隊棧橋、海軍記念館見学

15:00 東舞鶴駅解散

以上

「地方創生時代の政策と議会のあり方を学ぶ」を受講した所感

高瀬 洋

4月18日、19日の2日間、京都府舞鶴市でローカルマニフェスト推進地方議員連盟及びマニフェスト大賞実行委員会が主催、早稲田大学マニフェスト研究所が共催する地方議員研修会が開催され、全国から約150名の地方議員の出席があり、私も参加しました。



基調講演をされた北川正恭
早大名誉教授

マニフェスト大賞は、これまで注目を集めることの少なかった地方自治体の首長、議員や地域主権を支える市民の活動実績を募集・表彰し、発表することで、地方政治で地道な活動を積む人々に名誉を与え、更なる政策提言意欲の向上につながることを期待するものです。これまで、11回の歴史があり昨年度の応募は2,514件に及んでいます。

議員にとって、更には議会にとって、その地域の課題を捉え、どのようなまちづくりを目指すのかを真剣に考え、政策として提言していくことは最も重要な役割です。しかし、このことが十分にはできていないのも現状です。目先の市民の困りごとを行政に掛け合っただけで問題を解消することが、主たる議員活動になってしまっている議員も多いのではないかと思います。また、そういう議員の方が市民から評価されがちである状況も否定できません。

マニフェストというのは議員個人や政党等が実現すべき政策課題について目標や期限などを明記して具体的に示したものを指します。今回の研修では、舞鶴市をはじめ、過去にマニフェスト大賞を受賞した、いくつかの自治体の発表を聴いたのですが、議会や議員のあるべき姿を、改めて認識できたのが大きな収穫でした。

舞鶴市は、新幹線の誘致はできませんでしたが、舞鶴引揚記念館、舞鶴赤れんがパーク、海軍記念館を中心とした観光に力を注いでいます。また、舞鶴港を起点とし、韓国の東海やロシアのウラジオストックを結んだ日韓露国際フェリーの運行にも積極的です。平成28年度に17回寄港したクルーズ船も、今年度は40回を超える見通しのようです。これには舞鶴から京阪神方面への高速道路整備が進んだことが追い風となっているようですが、西脇も観光資源が少ないと諦めずに、近隣の観光地との連携



日韓露国際フェリー航路～広がる可能性～

携含めた検討をする必要があると思います。舞鶴から西脇まで車で1時間と少力で移動できたのですが、外国の観光客からすると、舞鶴と西脇など近いものと感じるのではないかと思います。

今回、舞鶴市での開催となったのは、昨年度のマニフェスト大賞の首長の部で同市がグランプリとなったためですが、2日目は、市内の引揚記念館、赤れんがパーク、海軍記念館などの視察にも参加し、とても有意義な2日間となりました。以上

「地方創生時代の政策と議会のあり方を学ぶ」所感

自民クラブ 高橋博久

今回受講をしようと思った動機は、亀岡市議会、福知山市議会における主権者教育の取り組み事例報告があるとの記事が目についたからであった。

参加して驚いたことは、予定参加者が70～80名とのことであったのに、150名は超えていたであろうことと、若者がほとんどで、私などは場違いな高齢者を感じたことである。

北川正恭先生の基調講演では、二元代表制のポイント的な話が印象的であった。

まだまだ、執行機関に追従的な議会が多く、地方創生時代の今、そのことに気が付かなければ、市民の議会不要論的発想による、定数削減、報酬削減、政務活動費不要論は無くならない。

当たり前の話だが首長は法律・規則に従っている、しかしそれが地方創生の進展を阻害している、問題がある、ならば、これを変えることができるのは議会であり、皆さんが選挙の時に出したマニフェストは、ほとんどが、変えるという意思を示しているのに、どうなっているのだろう。いつまでも義理人情の選挙をしてはダメだ。とのことであった。

地方ほど、政治課題が見えやすい、どうか議会として議会活動を議会全体として活動してほしい、会派のあり方も真剣に検討してください、自己決定、自己責任で決定権を行使してください。変えることができるのは議会だけです。

くどいように、同じことを何度も話されたことの意味は、地方議会が旧態依然として抱えている大きな課題であり、これを打破しなければ意味がないとのことであろうと心しました。

次にマニフェスト大賞で2016年グランプリを受賞した舞鶴市多々見良三市長の講演があった。病院長から市長になられた異色の方で、舞鶴市が抱えていた病院問題解決に成功され、その手腕で舞鶴市行政運営も取り組まれたとのことであった、ただ統廃合という「減らす・削る」という発想ではなく「最小の投資で最大の効果」を、そのためには「集中と選択・分担と連携」による、まちづくりの方向性と目標を明確化、市民目線に立って取り組んでいるとのことであった。

舞鶴市は、海上自衛隊があつたり、観光資源も多く、西脇市とは違うが、悩みは同じようにあるようで、それにどのように取り組むかであろう。

最後に、福知山市・京丹後市・亀岡市・舞鶴市から、それぞれ事例報告があった。福知山市の高校生議会、亀岡市のこども議会は、我々が取り組もうとしている趣旨は同じ、やり方が違うだけ、その地方独自のやり方で、成果を出したいものだと思った。

京丹後市は、政務活動費の後払い制と詳細公開について、舞鶴市からは議会の4年間(1期)の議会活動基本計画を策定し、議会機能の充実・委員会審査の充実に取り組んでいる。また効率的・効果的な議会運営に取り組んでいる。との報告があった。わが市においても、取り組みが始まっており精神的負担が感じられるところであろうが、「議会の存在感が発揮できるのは、これらの取り組みである」と、北川先生から講評あり、続いて「自立した議員になれ」と

締めくくられた。あらためて議員とは議会活動とは、どうあるべきかを考えた。
改革の終着駅はない、市民の信頼を得てなくてはならない議会づくりに、議
会を上げて更に取り組みたいものだ。